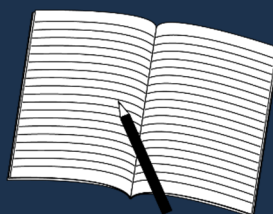


Handbook for Graduate students

薬学専攻（博士課程）

学生の手引き

2025



目 次

専攻の概要	1
授業科目開講一覧	5
スケジュール	7
修了要件について	9
研究指導等について	12
研究指導に関する目安	13
【様式1】研究計画書	14
【様式2】履修及び研究計画書	15
【様式】Up-to-date セミナー受講報告書	16
【様式】ジョブ型研究インターンシップ報告書	17
履修登録について	18
その他	19
研究グループ連絡先	22

大学院医薬保健学総合研究科 薬学専攻(博士課程) 博士(薬学)	
定員 7名	
● 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：DP） 【卒業認定・学位授与に関する基本的考え方】 本課程では、医療人として必要であり高度な薬学分野の講義を受講するとともに、最新の医療薬学関連研究に取り組むことにより、高度な専門性と優れた研究能力ならびに国際的視野を有する人材を育成することを目的としている。 必要な研究指導を受け、主に薬学研究分野ならびに薬学関連科目を履修して所定単位数以上を修得し、英語能力試験において所定の基準を満たすことが求められる。また、研究成果が審査付きの学術誌に公表されることが求められる。研究成果を記述した学位論文の作成と口頭発表・討論により、その内容が審査され、審査に合格した学生に、博士(薬学)を授与する。 (1) 医療人かつ薬学研究者として必要な、高い倫理観と強い責任感、医療薬学分野における高度な専門的知識と幅広い見識、研究能力を身に付けている。 (2) 国際社会で活躍できる情報収集・発信能力とコミュニケーション能力、国際感覚及び英語能力を身に付けている。 (3) 医療薬学分野における最新の薬学研究を遂行し、課題発見から課題解決に向けた薬学研究を指導的立場で遂行することができる。 ● 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー：CP） 本課程では、薬学研究分野ならびに薬学関連科目のみならず薬学と深く関連する最新の医学系学問、そして専門英語をより幅広く学ぶことを可能とし、先進的薬物療法に資する医療薬科学を統合した教育・研究に資するカリキュラム構成を採用している。 1. 教育内容 (1) 自立した研究者として指導的立場で研究活動を行うために必要な、倫理観、責任感、最先端の専門知識と幅広い見識を修得する。 (2) 国際社会で活躍できる専門英語力を修得し、情報収集・発信能力、ディスカッション能力、コミュニケーション能力を修得する。 (3) 最先端の研究活動を通して、文献読解や説明能力、薬学的立場から課題設定から課題解決に向けた研究能力と指導能力を修得する。 2. 教育方法 (1) 研究者として倫理観を修得するため、「次世代研究者倫理」を配置している。薬学と研究分野を横断する学際的研究分野をより幅広く学ぶ「初期総合カリキュラム」、薬学系の教員による専攻科目を用意し、キャリアパスを考慮した最先端の知識や臨床現場での実践的な活動および学術的な知識や研究能力を体系的に修得する「薬学専攻選択科目」を配置している。 (2) 国際社会で活躍できる専門英語力を修得するため、「初期総合カリキュラム（基礎系教育セミナー1，2）」、「国際研究実践」を開講している。 (3) 最先端の研究活動を通して、文献読解や説明能力、研究能力を修得するための研究室セミナー・カンファレンスとして「研究分野別特論」、学位申請のための論文作成を目的とする「薬学特別研究」、並びに学会発表等について実践的な演習を行う「薬学特別演習」を配置している。 【学修成果の評価】 (1) 学修成果の評価基準・方法は各開講科目のシラバスに示している。	

(2) ディプロマポリシーに掲げる3つの資質・能力と学修成果の総合的な評価は、研究成果が審査付きの学術誌に公表され、研究成果を記述した学位論文を作成し、学位論文に関する口頭発表・討論の審査により実施する。

● 入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー：AP）

本課程では、薬学を中核に据えた医療系学問分野における最先端の知識、医療人としての実践的な研究能力、および高い倫理観と国際的視野の醸成を目的とします。薬学・医学・保健学という三つの医療系学問分野が横断的に連携した本研究科に特有の学際的環境の中で、基礎薬学から医療薬学にわたる幅広い分野での教育を通して、高い専門性を有する薬学教育・薬学研究のリーダー、自然科学の素養と学術的に優れた研究能力を兼ね備えた医療人を養成します。具体的には、臨床現場において指導的役割を果たす薬剤師、医療薬学教育・研究をリードする薬系大学教員、医療・厚生・薬事・環境等の行政担当者、新薬開発や臨床試験等に携わる研究者など、高度に専門的な業務に従事し、その第一線で活躍を目指す人を受け入れます。

入学者選抜の基本方針としては、一定レベル以上の学力（専攻学術および英語）を有し、これまでに行った研究課題に対する理解と熱意、さらに将来、上記の分野で活躍することに強い意欲をもっていることを重視します。選抜は、基礎学力、英語能力、論理的思考力、研究課題の理解力等を総合して判定します。

● 想定される就職先

- ・医療関係機関（病院、薬局など）
- ・薬学系・医療系大学（教員）
- ・官公庁の医療・薬系関係部署
- ・企業での研究開発部門（臨床開発研究員など）
- ・企業での営業学術部門（学術研究員など）

● 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

【卒業認定・学位授与に関する基本的考え方】

本課程では、医療人として必要であり高度な学際的分野の講義を受講するとともに、最新の医療薬学関連研究に取り組むことにより、高度な専門性と優れた研究能力ならびに国際的視野を有する人材を育成することを目的としている。

必要な研究指導を受け、主に学際的研究分野ならびに薬学関連科目を履修して所定単位数以上を修得し、英語能力試験において所定の基準を満たすことが求められる。また、研究成果が審査付きの学術誌に公表されることが求められる。研究成果を記述した学位論文の作成と口頭発表・討論により、その内容が審査され、審査に合格した学生に、博士(学術)を授与する。

- (1) 医療人かつ学術研究者として必要な、高い倫理観と強い責任感、医療薬学分野における高度な専門的知識と幅広い見識、研究能力を身に付けている。
- (2) 国際社会で活躍できる情報収集・発信能力とコミュニケーション能力、国際感覚及び英語能力を身に付けている。
- (3) 医療薬学分野における最新の学術研究を遂行し、課題発見から課題解決に向けた薬学研究を指導的立場で遂行することができる。

● 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

本課程では、研究分野を横断する学際的研究分野ならびに薬学関連科目のみならず薬学と深く関連する最新の医学系学問、そして専門英語を学ぶことを可能とし、先進的薬物療法に資する医療薬科学を統合した教育・研究に資するカリキュラム構成を採用している。

1. 教育内容

- (1) 自立した研究者として指導的立場で研究活動を行うために必要な、倫理観、責任感、最先端の専門知識と幅広い見識を修得する。
- (2) 国際社会で活躍できる専門英語力を修得し、情報収集・発信能力、ディスカッション能力、コミュニケーション能力を修得する。
- (3) 最先端の研究活動を通して、文献読解や説明能力、薬学的立場から課題設定から課題解決に向けた研究能力と指導能力を修得する。

2. 教育方法

- (1) 研究者として倫理観を修得するため、「次世代研究者倫理」を配置している。薬学と研究分野を横断する学際的研究分野をより幅広く学ぶ「初期総合カリキュラム」、薬学系の教員による専攻科目を用意し、キャリアパスを考慮した最先端の知識や臨床現場での実践的な活動および学術的な知識や研究能力を体系的に修得する「薬学専攻選択科目」を配置している。
- (2) 国際社会で活躍できる専門英語力を修得するため、「初期総合カリキュラム（基礎系教育セミナー1，2）」、「国際研究実践」を開講している。
- (3) 最先端の研究活動を通して、文献読解や説明能力、研究能力を修得するための研究室セミナー・カンファレンスとして「研究分野別特論」、学位申請のための論文作成を目的とする「薬学特別研究」、並びに学会発表等について実践的な演習を行う「薬学特別演習」を配置している。

【学修成果の評価】

- (1) 学修成果の評価基準・方法は各開講科目のシラバスに示している。
- (2) ディプロマポリシーに掲げる3つの資質・能力と学修成果の総合的な評価は、研究成果が審査付きの学術誌に公表され、研究成果を記述した学位論文を作成し、学位論文に関する口頭発表・討論の審査により実施する。

● 入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー：AP）

本課程では、薬学を中核に据えた医療系学問分野における最先端の知識、医療人としての実践的な研究能力、および高い倫理観と国際的視野の醸成を目的とします。薬学・医学・保健学という三つの医療系学問分野が横断的に連携した本研究科に特有の学際的環境の中で、基礎薬学から医療薬学にわたる幅広い分野での教育を通して、高い専門性を有する薬学教育・薬学研究のリーダー、自然科学の素養と学術的に優れた研究能力を兼ね備えた医療人を養成します。具体的には、臨床現場において指導的役割を果たす薬剤師、医療薬学教育・研究をリードする薬系大学教員、医療・厚生・薬事・環境等の行政担当者、新薬開発や臨床試験等に携わる研究者など、高度に専門的な業務に従事し、その第一線で活躍を目指す人を受け入れます。

入学者選抜の基本方針としては、一定レベル以上の学力（専攻学術および英語）を有し、これまでに行った研究課題に対する理解と熱意、さらに将来、上記の分野で活躍することに強い意欲をもっていることを重視します。選抜は、基礎学力、英語能力、論理的思考力、研究課題の理解力等を総合して判定します。

● 想定される就職先

- ・医療関係機関（病院、薬局など）
- ・薬学系・医療系大学（教員）
- ・官公庁の医療・薬系関係部署
- ・企業での研究開発部門（臨床開発研究員など）
- ・企業での営業学術部門（学術研究員など）

医薬保健学総合研究科 授業科目開講一覧(令和7年度4月期入学用)

薬学専攻(博士課程)

2025.4

科目区分	授業科目の名称	担当教員	時間割番号	単位数		開講時期	備考
				必修	選択		
大学院G S 発展科目	★ 次世代研究者倫理	大学院教務委員	09101	1		Q1	
	★ 次世代エッセンシャル実践	大学院教務委員	09102	1		Q2	
	★ 次世代イノベーション開拓	松島 大輔	09103.1		1	Q2	選択必修1単位
	★ 数理・データサイエンス・AI発展	大学院教務委員	別紙参照		1	Q1 or Q2 or Q3	
	★ 国際研究実践	主任指導教員	※	1		通年科目	
初期総合 カリキュラム	★ ジョブ型研究インターンシップ	主任指導教員	●		2		
	論文演習	-			1		
	医学統計学演習	-			1		
	細胞培養法	-			1		
	細胞培養法実習	-			1		
	微生物培養法	-			1		
	微生物培養法実習	-			1		
	形態解析研究法	-			1		
	形態解析研究法実習	-			1		
	遺伝子操作実験法	-			1		
	遺伝子操作実験法実習	-			1		
	生化学分子生物学研究法	-			1		
	生化学分子生物学研究法実習	-			1		
	免疫学研究法	-			1		
	免疫学研究法実習	-			1		
	トレーサー実験法	-			1		
	トレーサー実験法実習	-			1		
	実験動物学	-			1		
	実験動物学実習	-			1		
	社会医学研究法	-			1		
	社会医学研究法実習	-			1		
	★ 基礎系教育セミナー1	Gary Ross	09423.001		1	Q1	
	★ 基礎系教育セミナー2	Gary Ross	09424.001		1	Q2	
	臨床系領域融合セミナー	-			2		
	★ フロンティア医学セミナー	主任指導教員	※		2	前期・後期	
	分子生物学入門	-			1		
	分子腫瘍学特論	-			1		
	臨床統計学特論	-			1		
	臨床栄養学特論	-			1		
	臨床統計学演習	-			1		
	★ レギュラトリーサイエンス特論	主任指導教員	※		2	通年科目	
薬学専攻	血管分子生物学特論	-			10		
	血管細胞生物学	-			6		
	分子医化学	-			6		
	循環生理学	-			6		
	血管増殖調節学	-			6		
	膠原病学	-			3		
	皮膚病学特論	-			3		
	皮膚腫瘍学	-			3		
	皮膚免疫学	-			3		
	血液情報統御学特論	-			10		
	臨床検査学	-			6		
	細菌検査学	-			2		
	内分泌診断学	-			4		
	集中治療医学	-			4		
	重症患者管理学	-			4		
	救命救急医学	-			4		
	臓器機能制御学特論	-			10		
	循環器病学	-			4		
	内分泌代謝学	-			8		
	小児血液腫瘍学	-			4		
	先天性代謝病学	-			4		
	小児科学	-			4		
	画像診断治療学特論	-			10		
	放射線診断学	-			4		
	血管内治療学	-			4		

科目区分	授業科目の名称	担当教員	時間割番号	単位数		開講時期	備考
				必修	選択		
薬学専攻	磁気共鳴診断学	-			2		
	画像診断学	-			2		
	心肺病態制御学特論	-			10		
	心血管外科学	-			6		
	呼吸器外科学	-			6		
	分子情報薬理学特論	-			10		
	細胞シグナル伝達学	-			6		
	細胞分子機能学特論	-			10		
	薬物間相互作用論	-			6		
	薬物療法科学	-			6		
	医療経営学特論	-			10		
	医療安全管理学	-			2		
	医療マーケティング	-			2		
	医療経営学	-			2		
	★ 薬物代謝毒性論	中島 美紀	05002		2	隔年開講(偶数年の後期)	
	★ 薬物治療の予測と評価	加藤 将夫	05004		2	隔年開講(奇数年の後期)	
	★ 医療コミュニケーション学	石崎 純子	05009		2	隔年開講(偶数年の後期)	
	★ 先端生体防御学	倉石 貴透	05014		2	隔年開講(奇数年の前期)	
	★ がん薬物療法管理学	菅 幸生	05015		2	隔年開講(奇数年の前期)	
	★ 先端医薬安全性評価学	荒川 大	05016		2	隔年開講(偶数年の前期)	
	★ 個別薬物療法学	嶋田 努	05026		2	隔年開講(偶数年の後期)	
	★ 医薬品品質・セキュリティ学	吉田 直子	05027		2	隔年開講(奇数年の後期)	
	★ 薬物送達学	中村 孝司	05028		2	隔年開講(偶数年の前期)	
	★ 研究分野別特論	主任指導教員	※	12		通年科目	
	★ 薬学特別演習	主任指導教員	※	2		通年科目	
	★ 薬学特別研究	主任指導教員	※	2		通年科目	
	先端医学セミナー	-			9		
	★ Up-to-dateセミナー	主任指導教員	●		2	通年科目	

【履修における注意事項】

★の科目は、薬学系教員が開講する科目で、薬学推奨科目となっています。

履修登録の方法と履修モデルは学生の手引き内に掲載していますので、参考にして履修登録してください。

★の科目以外を履修する場合は、別途履修登録の手続きが必要となります。速やかに薬学学務係窓口へ申し出てください。

なお、必修科目は必ず入学時に履修登録してください。(2年次、3年次、4年次は登録不要)

※の科目は所属の研究室により時間割番号が違うので、別途アカンサスポータルにて時間割番号を確認してください。

●の科目は履修登録不要です。別途提出様式あり。

講義内容・担当教員の連絡先は、金沢大学SYLLABUS(<http://sab.adm.kanazawa-u.ac.jp/>)を参照してください。

詳細な開講時間帯は、担当教員に確認してください。

上記内容は、担当教員の異動等により予告なく変更することがあります。

薬D

4月入学者 学位取得に至るスケジュール

以下は、4年間で課程を修了する場合の標準的なスケジュールである。主な事項のみを記してあるため、これ以外の事項及び具体的な日程については、随時通知等で確認すること。

年次	月	事項
1	4	・研究室配属 ※主任指導教員の研究室に配属 ・指導教員、面談教員の決定 ・研究計画書（様式1）及び履修及び研究計画書（様式2）を主任指導教員に提出 ・研究指導計画の決定 ・授業科目の履修（履修登録期間内に必要な科目の履修登録をする）
	6	・授業科目の履修（履修登録期間内に必要な科目の履修登録をする）
	10	・授業科目の履修（履修登録期間内に必要な科目の履修登録をする）
	12	・授業科目の履修（履修登録期間内に必要な科目の履修登録をする）
2～3	4	・履修及び研究計画書（様式2）を主任指導教員に提出 ・授業科目の履修（履修登録期間内に必要な科目の履修登録をする）
	6	・授業科目の履修（履修登録期間内に必要な科目の履修登録をする）
	10	・授業科目の履修（履修登録期間内に必要な科目の履修登録をする）
	12	・授業科目の履修（履修登録期間内に必要な科目の履修登録をする）
4	4	・履修及び研究計画書（様式2）を主任指導教員に提出 ・授業科目の履修（履修登録期間内に必要な科目の履修登録をする）
	6	・授業科目の履修（履修登録期間内に必要な科目の履修登録をする）
	10	・授業科目の履修（履修登録期間内に必要な科目の履修登録をする）
	12	・授業科目の履修（履修登録期間内に必要な科目の履修登録をする）
	1	・学位審査願、学位論文等の提出
	2	・口頭発表会
	3	・学位論文審査 ・学位記授与

薬D

10月入学者 学位取得に至るスケジュール

以下は、4年間で課程を修了する場合の標準的なスケジュールである。主な事項のみを記してあるため、これ以外の事項及び具体的な日程については、随時通知等で確認すること。

年次	月	事項
1	10	・研究室配属 ※主任指導教員の研究室に配属 ・指導教員、面談教員の決定 ・研究計画書（様式1）及び履修及び研究計画書（様式2）を主任指導教員に提出 ・研究指導計画の決定 ・授業科目の履修（履修登録期間内に必要な科目の履修登録をする）
	12	・授業科目の履修（履修登録期間内に必要な科目の履修登録をする）
2～3	4	・履修及び研究計画書（様式2）を主任指導教員に提出 ・授業科目の履修（履修登録期間内に必要な科目の履修登録をする）
	6	・授業科目の履修（履修登録期間内に必要な科目の履修登録をする）
	10	・授業科目の履修（履修登録期間内に必要な科目の履修登録をする）
	12	・授業科目の履修（履修登録期間内に必要な科目の履修登録をする）
4	4	・履修及び研究計画書（様式2）を主任指導教員に提出 ・授業科目の履修（履修登録期間内に必要な科目の履修登録をする）
	6	・授業科目の履修（履修登録期間内に必要な科目の履修登録をする）
	10	・授業科目の履修（履修登録期間内に必要な科目の履修登録をする）
	12	・授業科目の履修（履修登録期間内に必要な科目の履修登録をする）
	4	・履修及び研究計画書（様式2）を主任指導教員に提出 ・授業科目の履修（履修登録期間内に必要な科目の履修登録をする）
	6	・授業科目の履修（履修登録期間内に必要な科目の履修登録をする）
	7	・学位審査願、学位論文等の提出
	8	・口頭発表会
	9	・学位論文審査 ・学位記授与

修了要件について

修了要件

以下に示す要件を全て満たしていることが修了に必要なとなる。

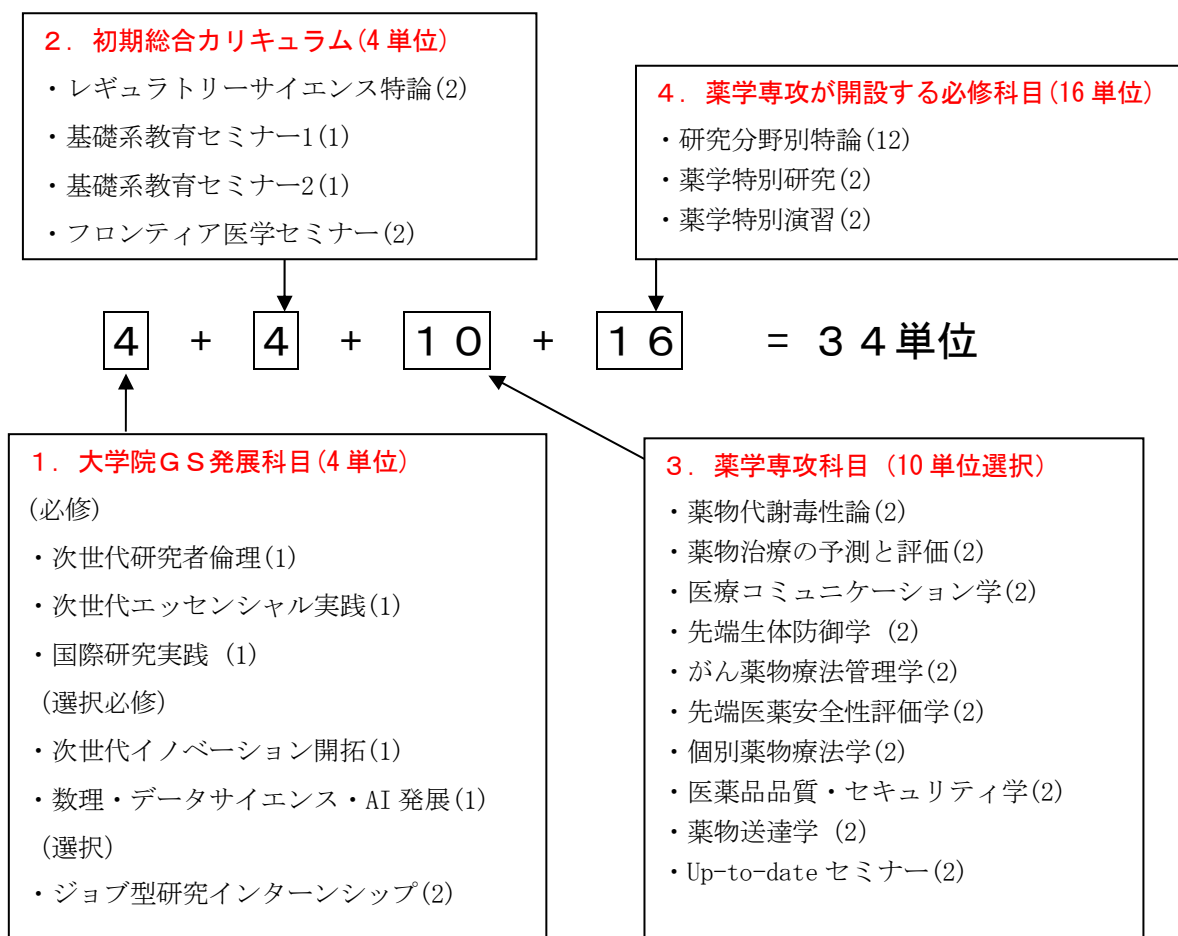
- (1) 4年以上在学すること。優れた研究業績を上げた者については、当該課程に3年以上の在学期間で足りる場合がある。
- (2) 計34単位以上修得すること。
- (3) 必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。
- (4) 本学では英語能力強化の一環として、博士課程薬学専攻に入学した学生は、原則全員が英語の外部検定試験を受験し、TOEIC 575点以上、TOEFL-iBT 58点以上、TOEFL-PBT 493点以上、IELTS 4.5以上のいずれかの基準を満たして修了の6ヶ月前までに報告すること。

受験の時期	大学院在学中
報告の方法	試験のスコアの原本と写しを修了の6ヶ月前までに薬学学務係へ提出。 (修了要件の点数に満たない場合も提出すること)
対象とする試験	TOEIC (公開テスト, TOEIC-IP), TOEFL-iBT, TOEFL-PBT, IELTS ※TOEFL-ITPは対象外
受験免除の対象	1. TOEIC 760点, TOEFL-iBT 80点, TOEFL-ITP 550点, IELTS 6.0, 以上のスコアを持つ者 (ただし, 大学入学以降に受験した試験に限る) 2. 社会人 (14条特例の申請の有無にかかわらず, 入学月に就労している者) 3. 英語母語話者 一般に英語を公用語とする国に生まれ育ち, 英語を第一言語として獲得した者。英語を公用語とする国一覧 (以下) アイルランド, アメリカ, アンティグア・バーブーダ, イギリス, イスラエル, インド, ウガンダ, エリトリア, オーストラリア, ガイアナ, ガーナ, カナダ, カメルーン, ガンビア, キリバス, クック諸島, グレナダ, ケニア, サモア, ザンビア, シエラレオネ, ジャマイカ, シンガポール, ジンバブエ, スーダン, スワジランド, セーシェル, セントクリストファー・ネイビス, セントビンセント・グレナディーン, セントルシア, ソマリランド, ソロモン諸島, タンザニア, ツバル, ドミニカ国, トリニダード・トバゴ, トンガ, ナイジェリア, ナウル, ナミビア, ニウエ, ニュージーランド, パキスタン, バヌアツ, バハマ, パプアニューギニア, パラオ, バルバドス, フィジー, フィリピン, ベリーズ, ボツワナ, マーシャル諸島, マラウイ, マルタ, ミクロネシア連邦, 南アフリカ, 南スーダン, モーリシャス, リベリア, ルワンダ, レソト

履修方法

大学院G S 発展科目	次世代研究者倫理（1 単位） 次世代エッセンシャル実践（1 単位） 国際研究実践（1 単位）	（必修） 3 単位
	次世代イノベーション開拓（1 単位） 数理・データサイエンス・AI 発展（1 単位）	（選択必修） 1 単位
	ジョブ型研究インターンシップ（2 単位）	（選択） 2 単位
初期総合カリキュラム		4 単位以上
薬学専攻が開設する選択科目		10 単位以上
薬学専攻が開設する必修科目	研究分野別特論（12 単位） 薬学特別演習（2 単位） 薬学特別研究（2 単位）	16 単位
合計		34 単位以上

履修モデル（修了要件34単位）



《注意》

【Up-to-date セミナー】

履修登録は不要。

学内で開催されているアカデミア研究、企業での研究開発、産学連携、知財戦略などに関連する分野において開講される最先端のセミナーを受講する。

(例)

- ・アカデミア研究の社会実装のためのセミナー
- ・NanoLSI 公開セミナー
- ・VBL 起業家育成セミナー
- ・その他の授業主題（アカデミア研究、企業での研究開発、産学連携、知財戦略等）に関連するセミナー

15 回のセミナーを受講後、速やかに Up-to-date セミナー報告書と 15 回分のレポートを指導教員へ提出してください。指導教員からの受講報告書の提出により薬学学務係にて単位認定処理を行います。

履修を希望する場合には、あらかじめ履修計画を十分検討した上で、主任指導教員と相談のうえ、履修すること。

【ジョブ型研究インターンシップ】

履修登録は不要。

ジョブ型研究インターンシップ推進協議会が実施する長期間（2 ヶ月以上）かつ有給の研究インターンシップに参加する。

履修を希望する場合、主任指導教員と相談のうえ履修すること。

(流れ)

- 1) 自らジョブ型研究インターンシップのマッチングシステムに登録する。
- 2) 各企業のジョブディスクリプション（募集要項）を閲覧のうえ、希望する企業に応募して、インターンシップ先を決定する。
- 3) インターンシップ終了後、速やかにレポートおよび報告書を作成し、ジョブ型研究インターンシップ推進協議会が発行する評価書（能力評価）とともに指導教員へ提出する。
- 4) 履修登録は（様式）ジョブ型研究インターンシップ報告書の提出があり次第、薬学学務係にて行いますので、インターンシップの参加後、報告書を薬学学務係まで提出してください。

【学生用問い合わせ窓口（株式会社アカリク）】 student-coopj@acaric.co.jp

【マッチングシステム登録】 <https://2022ss-lgbr.coopj-intern.com/login>

◆各報告書、登録方法等◆アカンサスポータルでの連絡および薬学系 web サイトにて掲載

◆報告書提出期限◆修了の 6 か月前まで

（3 月修了予定者は修了年度の 9 月末日、9 月修了予定者は修了年度前年度の 3 月末日）

研究指導等について

1. 研究指導体制について

研究指導の充実を図るために複数教員による指導体制をとります。

1) 研究指導グループ

- ① 学生ごとに、主任指導教員 1 名及び指導教員 2 名からなる研究指導グループが構成されます。
- ② 研究指導グループの編成は、当該専攻に係る会議で決定します。
- ③ 主任指導教員は、履修計画の作成、研究計画の立案、研究の遂行、研究中間報告の作成、学位論文の作成、学位請求などの指導における責任を担います。
- ④ 指導教員は、主任指導教員を補佐します。

2. 研究指導及び学位請求の手続き

所定の年限で修了するための研究指導及び学位請求のスケジュールは以下の通りです。

- ① 入学後速やかに研究指導グループの助言を受け、「【様式 1】研究計画書」及び「【様式 2】履修及び研究計画書」を作成して主任指導教員へ提出します。

なお【様式 1】は在学中の研究計画の全容について記載するもので、【様式 2】は年度ごとの履修及び研究の計画を記載するものです。

これら様式は、下記薬学系 web サイトより入手できます。

[\(https://yakugaku.w3.kanazawa-u.ac.jp/student/\)](https://yakugaku.w3.kanazawa-u.ac.jp/student/)

- ② 【様式 2】に従い、指定された期日までに当該年度の履修登録をアカンサスポータルから行います。履修登録の期日については、各学期当初にアカンサスポータルでお知らせします。
- ③ 研究計画に従って研究を遂行します。研究計画に大きな変更があった場合には、研究指導グループに報告し、協議の上、【様式 1】及び【様式 2】を修正します。
- ④ 研究指導グループの助言を受けて学位論文としてまとめます。作成した学位論文は研究指導グループで査読及び修正等の予備審査に付されます。
- ⑤ 学位請求手続きを、学位論文審査要項に従って行います。
- ⑥ 学位論文の審査及び口述による最終試験を受けます。
- ⑦ 単位修得状況及び最終試験の結果に基づき当該専攻に係る会議で最終審査が行われます。合格した場合は、博士課程を修了するとともに、博士（薬学）または博士（学術）の学位が授与されます。

3. 面談教員

面談教員（直接研究指導に携わらない教員）による学生面談を年 2 回（前期・後期）実施する。

- ① 学生ごとに、面談教員 1 名が担当する。
- ② 面談教員以外にも、学類生時における研究室配属前のアドバイス教員、大学院教務・学生生活委員長ならびに薬学系ハラスメント相談員にも相談可能。

研究指導に関する目安

平成24年1月4日
博士後期課程創薬科学専攻及び博士課程薬学専攻設置準備会議承認
平成24年7月4日薬学系領域委員会承認，平成24年4月1日から適用

当専攻における学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）について，その目安は次のとおりとする。

1. 主任指導教員は，学生の最終年度までの研究指導の計画を，学生から提示された研究計画書（様式1）を基に当該学生と協議の上決定し，入学後速やかに当該学生に示すものとする。
2. 主任指導教員は，学生から研究の進捗状況に関する報告を適宜受け，当該学生と協議の上，必要に応じて1. で作成した研究指導の計画を見直し，これを修正するものとする。
3. 各年度当初には，学生が研究計画書（様式1）に沿って履修及び研究計画書（様式2）を作成し，主任指導教員にこれを提出するものとする。
4. 主任指導教員は，学生にかかる研究計画（様式1及び様式2）を当該学生が修了後も，5年間は保存するものとする。

以上

博士前期課程・博士後期課程・博士課程(いずれかに○)

医薬保健学総合研究科	専攻	学籍 番号	
------------	----	----------	--

氏名 (自署)		主任指導教員 氏名(自署)	
------------	--	------------------	--

研究テーマ	
-------	--

研究目的	
研究内容	
研究スケジュール	1 年次 2 年次 3 年次 4 年次

年 月 日記載

20 年度 履修及び研究計画書

博士前期課程・博士後期課程・博士課程(いずれかに○)

医薬保健学総合研究科	専攻	学籍 番号	
------------	----	----------	--

氏名 (自署)		主任指導教員 氏名(自署)	
------------	--	------------------	--

研究テーマ	
-------	--

研究内容						
履修科目	科目名	単位	担当教員名	科目名	単位	担当教員名

備考

- 履修登録は、アカンサスポータルから行ってください。
- 必ず Web から履修登録状況を確認してください。

____年 ____月 ____日記載

提出日： 年 月 日

医薬保健学総合研究科 薬学専攻（博士課程）

Up-to-date セミナー受講報告書

所属・学年	学籍番号	学生氏名
研究室 年		

15回のセミナー受講後、速やかに本報告書と15回分のレポートを指導教員へ提出してください。

履修登録は不要です。指導教員からの受講報告書の提出により薬学学務係にて単位認定処理を行います。

ただし、本報告書の提出期限は修了の6か月前までとします。3月修了予定者は修了年度の9月末日まで、9月修了予定者は修了年度前年度の3月末日までに薬学学務係へ提出してください。

回数	実施年月日	セミナー名・演題等	講師名
1	年 月 日		
2	年 月 日		
3	年 月 日		
4	年 月 日		
5	年 月 日		
6	年 月 日		
7	年 月 日		
8	年 月 日		
9	年 月 日		
10	年 月 日		
11	年 月 日		
12	年 月 日		
13	年 月 日		
14	年 月 日		
15	年 月 日		

指導教員記入欄 ※記入後、本報告書のみを薬学学務係までご提出ください。薬学学務係にて単位認定処理を行います。

成績評価記入欄（標準評価方法）

上記のとおり参加したことを確認しました。

年 月 日

主任指導教員 氏名（自署） _____

提出日： 年 月 日

医薬保健学総合研究科 薬学専攻（博士課程）・創薬科学専攻（博士後期課程）

ジョブ型研究インターンシップ報告書

インターンシップ終了後、速やかに本報告書とともに作成したレポートおよびジョブ型研究インターンシップ推進協議会事務局から発行される評価書を添えて指導教員へ提出してください。

履修登録は不要です。指導教員からの受講報告書の提出により薬学学務係にて単位認定処理を行います。

ただし、本報告書の提出期限は、修了の6か月前までとします。3月修了予定者は修了年度の9月末日まで、

9月修了予定者は修了年度前年度の3月末日までに薬学学務係へ提出してください。

所属・学年	学籍番号	学生氏名
研究室 年		

派遣先企業名	
派遣先部署名	
派遣期間	年 月 日～ 年 月 日（実働 日間）
派遣先所在地	
実習内容	
インターンシップ派遣で得た学び	

指導教員記入欄

成績評価記入欄（標準評価方法）

上記のとおり参加したことを確認しました。

年 月 日

主任指導教員 氏名（自署）_____

※レポートおよびジョブ型研究インターンシップ推進協議会事務局から発行される評価書を参考に成績を記入のうえ、本報告書のみを薬学学務係までご提出ください。薬学学務係にて単位認定処理を行います。

履修登録について

その学期に開講される科目で単位認定を希望する科目は、すべて履修登録が必要です。

① 履修希望科目を決定

学生の手引き内にある「授業科目開講一覧」及び履修モデルを参考に、主任指導教員と相談の上、「【様式2】履修及び研究計画書」を作成してください。

② 履修希望科目の登録

①で作成した「【様式2】履修及び研究計画書」に従い、アカンサスポータル (<https://acanthus.cis.kanazawa-u.ac.jp>) を利用して、クォーター毎に、履修を希望する科目を登録してください。

同サイトへアクセスするためのID・パスワードは、この手引きと併せて渡しますので、入手したら必ずアクセスしてみてください。

登録可能期間は、アカンサスポータルで確認して、必ず期間内に登録を完了させてください。

アカンサスポータルからの登録方法の詳細は、「学生便覧」を参照してください。

※ 登録漏れのないよう注意してください。

※ 学外、学内を問わず、インターネットに接続できる環境であれば、どのパソコンからでもアカンサスポータルにアクセスできます。

③ 登録内容の確認

※ 履修科目の登録後、Web上で履修登録状況を確認できます。履修登録状況には、単位認定を希望するすべての科目が記載されていなくてはなりません。載っていない科目については、履修しても単位認定されませんので、履修登録期間中に必ず確認してください。

（参考） 令和7年度の履修手続きについて

【Q1 および前期】

- ・ 4月7日（月）7:00～18日（金）23:59 授業科目の履修登録期間
- ・ 4月22日（火）～ Web上で履修登録状況確認可能

【Q2以降】

- ・ 別途通知

※履修期間中は、24時間Webで履修登録が可能です。

※申請期間は年度により異なります。必ずクォーター毎にポータルメッセージにて確認してください。

そ の 他

1. 学生証

学生証は、4月上旬に薬学学務係窓口（自然科学本館G2階事務室，中央の窓口）でお渡しします。窓口時間は平日の8：30～17：00です。

その後の諸手続きで学籍番号が必要になりますので，速やかに取りに来てください。

なお，社会人の方で，やむを得ず取りに来られない場合は，主任指導教員に預けることも可能です。ただし，その場合は，必ずご自身で主任指導教員に相談してください。

なお，大学で実施される定期健康診断を受診するためにも，学生証が必要です。

【定期健康診断】 当専攻の2025年度4月入学者については，次のとおり実施されます。

4月18日（金）13：30～16：30（男女の区分なし）

場所：角間キャンパス 保健管理センター（本部棟）

健康診断受診予定日の前日までにアカンサスポータルより予約をしてください。

2. アカンサスポータル

本学ではICT教育の効果的な実践のため，ポータルサイト「アカンサスポータル」を運用しています。

同サイトを通じて，履修や成績に関すること，修了や学位論文に関することなど重要な情報をお知らせしますので，こまめにログインして確認するようにしてください。

機能，使用方法等については，「学生便覧」23ページを参照してください。

3. 学年・学期

当専攻の1年は，4月1日に始まり翌年の3月31日に終わります。

この期間を2学期4クォーターに分け，前期（第1クォーター，第2クォーター（4月1日～9月30日）），後期（第3クォーター，第4クォーター（10月1日～3月31日））としています。

当該学期の講義開始日・行事日程等については年度初めに「学年暦」を送付しますので，そちらで確認してください。

4. 住所等の変更

本人や父母等の住所・電話番号に変更があった場合は，速やかにアカンサスポータルで変更手続きを行ってください。また姓名に変更があった場合は，所定の手続きが必要になりますので薬学学務係まで申し出てください。

有職者で「大学院設置基準第14条に基づく特例」（後述9.）の適用を受けている学生については勤務先に変更があった際も同係まで申し出てください。

5. 角間キャンパスにおける駐車

本キャンパスは駐車スペースが狭いため，特段の事情があると認められる方を除き，駐車許可を制限しております。

やむを得ない理由により自動車通学を希望する場合は，薬学学務係に駐車許可を申請してください。申請期間の詳細については，4月上旬にアカンサスポータルからお知らせします。

6. 休学・復学・退学

いずれの場合も必ず、主任指導教員に十分相談の上、申請してください。

所定の用紙は、薬学学務係にあります。

(1) 休学

提出書類：「休学届」（所定の用紙）

提出期限：原則、希望月の前月 15 日まで

- ・ 病気またはその他の事由により、1ヶ月以上修学を中止しようとする場合は、学期末またはクォーター末までの申請が可能です。なお病気による場合は医師の診断書が必要です。
- ・ 各学期または各クォーター途中からの休学を願い出た場合は、休学はできますが、授業料は納めなければなりません。

(2) 復学

提出書類：「復学届」（所定の用紙）

提出期限：原則、希望月の前月 15 日まで

- ・ 休学期間中に復学を希望される場合は、復学の手続きが必要です。

(3) 退学

提出書類：「退学届」（所定の用紙）

提出期限：原則、希望月の前月 15 日まで

- ・ 当該学期またはクォーターの授業料を納めていない場合は退学できません。

7. 各種証明書

在学証明書・成績証明書・J R 学割証等の各種証明書は、薬学学務係窓口の対面に設置されている「証明書自動発行機」で即時発行可能です。画面に従って学生証を発行機にかざし、アカンサスポータルのパスワードを入力してください。

また、証明書自動発行機の設置場所や稼働時間、即時発行可能な証明書の種別については、金沢大学ウェブサイト>在学生>卒業・成績証明書申請方法にある「在学者の証明書の申請について」を参照してください。

なお、「証明書自動発行機」で発行可能な証明書は、学生本人が発行機にて学生証を使用して発行することを原則としておりますが、社会人の方でやむを得ない場合のみ、郵送による申請に限り受け付けます。下記 3 点を同封の上、薬学学務係までお送りください。

1. 返送用封筒（返送先の住所宛名を明記し、切手を貼付した長型 3 号のもの）
2. 本人確認可能な証明書等のコピー（例：運転免許証、健康保険被保険者証等）
3. 下記 7 項目を書いた用紙（任意様式）

- (1) 氏名（フリガナ）
- (2) 生年月日
- (3) 学籍番号及び所属専攻
- (4) 返送先住所
- (5) 申請者電話番号（日中連絡のつくもの）
- (6) 請求する証明書の種類と部数
- (7) 使用目的と提出先

（注意）

本学では電話やメールによる証明書申請は受け付けておりません。
郵送の場合、発送までに 3 日程かかりますので、必ず余裕を持って申請してください。

申請先：〒920-1192 金沢市角間町 金沢大学薬学学務係

8. 長期履修制度

当専攻では、職業を有している等の事情により標準の修業年限（４年）で修了することが困難な方を対象として、修業年限を超えて計画的に教育課程を履修し修了することにより学位を取得することができる「長期履修制度」を導入しています。

本制度の利用を希望される場合は、主任指導教員または薬学学務係へご相談ください。

(1) 対象

- ・有職者（臨時雇用を含む）
- ・家事，育児，介護等に従事している者

(2) 申請期限

１年次～３年次の２月末日まで

9. 大学院設置基準 14 条に基づく教育方法の特例制度

当専攻では、社会人学生に対して、大学院での学修を容易とするために「大学院設置基準 14 条に基づく教育方法の特例制度」を実施しています。

適用を希望する場合は、薬学学務係まで申し出てください。

参考：大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）〔抄〕

第 14 条 大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

10. 校舎

校舎は平日の 20 時～翌朝 7 時 30 分までの間、及び土日・祝日は玄関をロックして部外者の入館を制限しています。

時間外に校舎に入構する場合は、学生証が入館カードキーとなりますので、読み取り機にかざして入構してください。

11. 薬学同窓会

本会は金沢大学薬学部およびその前身校の時代から続く伝統ある同窓会であり、現在在学中の学類、大学院生及び教員を合わせて 6,000 名近くの会員がおられます。

本会の趣旨は、同じ学問を志す仲間として、会員相互の親睦を深め、情報交換、大学の現況並びに会員の消息の連絡を通じて、生涯に亘り学問の向上を目指すことにあります。

本会の活動として、在学生への教育支援事業（学生課外活動支援やなど）のほか、会誌及び名簿の発行、学術情報のお知らせ、卒業後の全国各地における支部会の開催等を行っております。

新たに入学される学生の皆様には、この趣旨を何卒御理解いただき、全員の入会をお願いしておりますので、よろしくお願いします。

問合せ先：〒920-1192 金沢市角間町 金沢大学 薬学同窓会事務局（TEL 076-260-6366）

研究グループ連絡先

* @以下は, @p.kanazawa-u.ac.jp (一部@staff.kanazawa-u.ac.jp)です。

研究室	連絡先	教授	准教授	講師	助教
臨床薬学	(石崎教授) junishi@ ☎ 076-234-6285 (菅教授) suga@staff ☎ 076-234-4401 076-265-2831 (嶋田教授) t-shimada@staff ☎ 076-234-6266 076-265-2831	石崎 純子 菅 幸生 嶋田 努	荒川 大 吉田 直子		石田 奈津子 渡辺 宏晃
分子薬物治療学	ykato@ ☎ 076-234-4465	加藤 将夫	増尾 友佑		
薬物代謝安全性学	nmiki@ ☎ 076-234-4408	中島 美紀	深見 達基		藤野 智恵里
薬物送達科学	tnakam@ ☎ 076-234-4479	中村 孝司			
生命恒動学	tkuraishi@staff ☎ 076-234-4481	倉石 貴透			堀 亜紀
遺伝情報制御学	matsukas@ ☎ 076-234-4487	松永 司	若杉 光生		赤堀 稜
ワクチン・免疫科学	shigeto@ ☎ 076-234-4463	吉田 栄人			田村 隆彦 山本 祐太郎
機能性分子合成学	jimatsuo@ ☎ 076-234-4474	松尾 淳一	濱田 翔平		臼口 和希
薬理学	k-kaneda@ ☎ 076-234-4468	金田 勝幸	出山 諭司		西谷 直也
衛生化学	suzukir@ ☎ 076-234-4413	鈴木 亮	古川 敦		長田 夕佳
臨床分析科学	kogawa@ ☎ 076-234-4460	小川 数馬	淵上 剛志		宗兼 将之
生薬学	sasaki@ ☎ 076-234-4441	佐々木 陽平	安藤 広和		
元素創薬合成化学	k1hirano@ ☎ 076-234-4411	平野 圭一	王 超		松本 晃
天然分子薬化学	kngoto@ ☎ 076-264-6305	後藤(中川) 享子			斎藤 洋平
生物有機化学	mishiro@ ☎ 076-264-4471		三代 憲司		藤田 光
活性相関物理化学	fukuyosi@ ☎ 076-234-4483			福吉 修一	
内山研究グループ	uchiyama@ ☎ 076-234-4428		内山 正彦		

令和7年4月

金沢大学薬学学務係

〒920-1192 石川県金沢市角間町

TEL (076) 234-6827・6828

FAX (076) 234-6844

E-mail y-gakumu@adm.kanazawa-u.ac.jp